会 議 録

附属機関又は 会議体の名称	第1回 豊島区商工政策審議会	
事務局（担当課）	文化商工部 生活産業課	
開催日時	令和6年9月9日（月） 14時00分～15時20分	
開催場所	豊島区役所8階 会議室807・808	
議 題	1. 開会 (1) 委員の紹介 (2) 会長・副会長の選出 (3) 諮問 (4) 区長挨拶 2. 議題 (1) 豊島区産業振興指針の概要について (2) 令和6年度産業振興施策の取組について 3. その他 4. 閉会	
配布資料	資料1 諮問書 資料2 豊島区商工政策審議会スケジュール 資料3 豊島区産業振興指針【概要版】 資料4 令和6年度 重点事業概要 《参考》 参考1 豊島区産業振興指針（R6. 3） 参考2 豊島区商工政策審議会委員名簿 参考3 豊島区商工振興条例 参考4 豊島区商工政策審議会運営要綱 参考5 豊島区産業振興指針 令和5年度取組状況一覧 参考6 豊島区基本計画施策案（4-1、4-2、4-3）	
公開の 可否	会議	公開 傍聴人数0人
	会議録	公開
出席者	委員	郭 洋春、鴨田 和恵、福田 友子、藤川 盛弘、千野 富久、鈴木 但、 大澤 豊、加藤 容子、神村 健一、森本 記代、金子 実和子、佐藤 徹明、 前原 一仁、小木曾 隆子、渡邊 圭介
	その他	生活産業課長
事務局	生活産業課	

審議経過

〈開会〉

生活産業課長： 定刻より早い時間ではありますが皆様お揃いですので、これより、第1回豊島区商工政策審議会を開催します。

本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は事務局を担当いたします生活産業課長です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて平成21年度から始まりまして、この商工政策審議会ですが、前回の委員の任期が切れましてことから、今回新たな委員を各団体からご推薦いただきました。また、区民の意見を取り入れるという観点から、公募による委員を募集いたしまして、論文、面接選考を経て、1名の方にご参加をいただくことになりました。後ほど委員の皆様をご紹介します。

本日の資料につきましては、次第の下部に記載しております。過不足がある場合にはお近くの職員までお申し付けいただければと存じます。

(1) 委員の紹介

生活産業課長： それでは委員の紹介をさせていただければと思います。参考2の資料をご覧ください。本審議会は商工振興条例第10条において、区長の附属機関として位置づけられておりまして、商工振興に関する事項をご審議いただきます。任期は本日、令和6年9月9日から令和8年9月8日になります。本来は区長より、お1人お1人に委嘱状をお渡しすべきところですが、お時間の都合上、机上にて配布をさせていただいております。では、名簿に基づきまして、各委員の紹介をさせていただきます。お名前を読み上げますので大変恐縮ですが、その場でご起立を願います。お時間の都合上、お名前と役職のみご紹介をさせていただければと思います。ただ、公募委員の方は簡単に区との関係についても一言おっしゃっていただければと思います。では、順々にご紹介をさせていただきます。

～委員紹介～

生活産業課長： 皆様どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 会長・副会長の選出

生活産業課長： 続きまして、本審議会の会長を選出していただきたいと思っております。

豊島区商工政策審議会運営要綱第3条に基づきまして、会長は委員の互選により指名となっておりますけれども、委員の皆さんの中で会長をお引き受けいただけるような方はいらっしゃいますでしょうか。

委員： 前回に引き続き〇〇委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

～一同賛同～

生活産業課長： それでは〇〇委員に会長をお願いいたします。

〇〇委員、会長席へご移動をお願いいたします。

続きまして、副会長の選出をしていただきたいと思っております。副会長につきましては、会長が指名するということになっております。会長いかがいたしますでしょうか。

会長： 私の独断でございますが、前回も副会長として参加していただきました豊島区中小企業診断士会の〇〇委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

～一同賛同～

生活産業課長： ○○委員に副会長をお願いいたします。

それでは、会長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

会 長： 皆様方、改めましてこんにちは。この度は、令和6年度第1回豊島区商工政策審議会にご参加いただきましてありがとうございます。

9月に入りましても、まだ災害級の猛暑が続いております。豊島区におかれても、被害があったということで豊島区のご苦労、皆様方のご尽力に心より御礼申し上げたいと思います。昨日、パリパラリンピックが閉会しましたがけれども、このパラリンピックというのは、1948年に当時のイギリス人の医師ルードヴィッヒ・グットマン博士が、第二次世界大戦で脊髄を負傷した人のリハビリの一環として、病院でアーチェリーを始めたのが最初だというふうに言われております。そして日本が参加したのが、1980年の冬季オリンピックです。まだ半世紀にも満たないところでございます。今回のパラリンピックでは日本人選手がものすごい活躍をしております、やはり1人1人の活躍が日本全国に勇気を与え、そしてそれが日本社会の活気に繋がっていくのではないかと、まさにそのようなことをこの豊島区の商工政策審議会でも作っていければ、豊島区が今以上に活性化し、そして盛り上がっていくのではないかと考えております。後ほどですね、区長のご挨拶もありますし、あるいは豊島区の産業振興指針の説明もあります。今回は半分以上新しい委員ということでございますので、また改めて新しい委員の方々の新しい知見、考えをこの指針に反映し、豊島区が今以上に発展していくことを願っております。非常に簡単ではございますが私の挨拶に代えさせていただきます。本日は、どうぞよろしくをお願いいたします。

生活産業課長： ありがとうございます。本日、ご欠席の鴨田副会長には次回改めてご挨拶をいただければと思います。

(3) 諮問

生活産業課長： 続きます、諮問に入りたいと思います。高際区長より、本審議会に向け諮問を行わせていただきます。代表で会長に諮問書をお受け取りいただきたいと思います。

～諮問および記念撮影～

(4) 区長挨拶

生活産業課長： ここで高際区長より一言ご挨拶をいただきます。

区 長： 皆様、こんにちは。日頃より、豊島区産業振興施策に様々ご尽力を賜りましてありがとうございます。また、お忙しい中第1回豊島区商工政策審議会にご参加いただき、委員ご就任を承諾いただきまして誠にありがとうございます。会長に今期も会長職を担っていただけるということで、大変心強く思っております。

また、私が非常に嬉しいのは、この審議会は前期もそうでしたが、女性が多い。15名中6名が女性の委員ということで、こんなに多い委員会、審議会は他にはないと思っております。また、会長からもお話ございました通り半分以上がニューフェイスということでここも非常に期待をしているところであります。

前期は会長よりおまとめいただいた、お手元の産業振興指針を新しい形で作っていただきました。新しい取り組みの一つとして、学生さんが冊子の表紙を始め、イラストを書いていたということ、若者の参画も進めていることと、今までよりもわかり

やすい、区民の皆様には届きやすいような工夫もしていただいているところであり、この新しい3月に作りました産業振興指針はですね、もちろん委員の皆様からのご意見も入っておりますけれども、約2000件の事業者の皆様からの声もいただきまして策定をしているところです。これをまさに道標に豊島区産業振興の施策を進めてまいります。けれども本指針の取り組み状況、それから、もしかして進めていく中でもうちょっとこれを強化した方がいい、これはちょっとどうかなってところもあるかもしれませんけれども、それについて、ぜひ今期の皆様には厳しくチェックをいただき、ご助言をいただくことを大いに期待しております。

また、もう一つ申し上げますと、今ですね、豊島区は区の最高指針になります、豊島区基本構想・基本計画の策定審議中であり、10年後の豊島区をどうしていくかという、そしてその10年後の将来像に向けて、まずこの5年間何をやるかという基本構想・基本計画を作る検討を進めております。検討にあたっては、一歩先にできましたこの産業振興指針を産業施策の一つの大きな柱とし、基本構想・基本計画における産業分野の大きな土台として落とし込みながら進めています。

この新しい指針では、いろいろご検討いただきました。これまでの起業支援や商店街振興に加えまして、産業を支えていく人の育成、それからSDGsの推進にも繋がりますけれども消費生活の視点、これを新たに盛り込んだ指針です。そうしたことも生かして、今、豊島区の基本構想・基本計画の検討を進めているところであり、また、この産業振興については区だけではなく、現場の商店街の事業者の皆様だけでなく、区民の皆様、また、地元の金融機関、産業団体などみんなでやっていくものだというようなことも強調して盛り込んでいますので、その魂も受け継いで基本計画の策定を進めております。11月、12月ぐらいになりますとパブコメで出てきますけれども、現状のプランはホームページに掲載しております。産業分野のみならず、皆様に資料を見ていただきまして、議事録も載せておりますので、今時点で気になることなどは、遠慮なくパブコメを待つことなくご意見お寄せいただけると嬉しいなと思います。間違いなくこの産業振興については、観光分野も含めて、これからの豊島区の土台になりますので、そうした意味でこの審議会ともきっちり連携取りながら作ってまいりたいと思っております。

今は国際情勢も本当に不安定でございますし、自然災害も多くいつ被災地になるかわからないそんな状況です。産業、商店街事業者もそうですけれども、影響を直で受けるということもございます。豊島区としてはどんな危機が来ようとも、しっかり連携して、ちょっと落ち込んでも、すぐまた復帰できる、復興できる、そうした思いで、この産業施策について、取り組んでまいりたいと思っております。皆様には会長のもと、素晴らしい産業振興指針になってはおりますけれども、これが実施できているかどうか、冒頭申し上げました通り厳しくチェックしていただき、私は変えるべきことがあれば、もうどんどん変えていいと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を今期いただければと思います。大いに期待をさせていただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

生活産業課長： ありがとうございます。ここで区長は公務のため退席をさせていただきます。

それでは、これより進行を会長に引き継がさせていただきます。会長よろしくお願いたします。

〈議題〉

(1) 豊島区産業振興指針の概要について

会 長： 議題に入る前に、会議の公開についてお諮りしたいと思います。ここでの議論の内容を多く区民の皆様にご覧いただくため、会議や会議録を公開したいと考えております。豊島区では審議会などの会議につきまして、公開を原則としておりますので、これまでの会議および会議録につきましても公開をしておりました。今回も公開したいということでございますが皆様方がいかがでしょうか。

～一同賛同～

なお、会議録の公開につきましては、個人が特定されないよう事務局に配慮をお願いしたいと思います。どうぞ、その点よろしくお願ひいたします。

続きまして、傍聴者の確認をさせていただきます。

生活産業課長： 傍聴希望者はおりません。

会 長： 傍聴者なしということで、このメンバーで行っていききたいと思います。

それでは早速議題に入らせていただきます。議題（1）豊島区産業振興指針の概要について及び、議題（2）令和6年度産業振興施策の取組について、事務局より説明をお願いいたします。

生活産業課長： （議題（1）について、資料2、3を基に説明）

産業振興計画グループ係長：（議題（2）について、資料4を基に説明）

会 長： 事務局から産業振興指針の概要と振興施策の取組についての説明をいただきました。

この二つの内容はですね、最初の概要につきましては、やはりオール豊島区に関係する全ての方々がこの産業推進に関わることによって、豊島をさらに一歩進めていこうという意味でいうと、全ての人携わる、そして誰1人取り残さないというSDGsのモデルにも沿った内容が、この産業指針の概要の中に随所に盛り込まれていると考えられるかなと思います。さらに、この令和6年度の産業振興施策、様々な事業計画を今説明していただきましたけれども、これを見ると、やはり街としては常に変化し続ける、立ち止まらないで、常に前を向いて、変わっていく姿を見せることが、豊島区に住む方、豊島区で働く方、豊島区に注目する全ての方々に、豊島区というものの素晴らしさを伝えることができるのではないかと考えております。そういった意味で、今言いますならば、やはりこの二つの今の説明につきまして、この審議会でそれをどうすればさらにブラッシュアップできるのかという点についてぜひともお考えいただければと思います。

実は今、池袋、渋谷、新宿は大きく変貌しつつあります。新宿西口でしょうか、ちょうど小田急百貨店が取り壊されて、あそこに48階建てのランドマークタワーが作られます。この48階のランドマークタワーというのは、やはりこの創発都市、ここで新しいビジネスを展開していく。そういう街に新宿を変えていこうというようなことが明確にうたわれているわけですね。そして、渋谷につきましては、こちらも、27年に向けて再開発が進んでいって、ここはウォークアブルな街へということで、要するに街を回遊することによって、渋谷区の素晴らしさを多くの人に知っていただくということで、大規模な開発が続いております。そして、池袋ですね。前区長の高野氏そして現区長の高際区長のもとですね、特に西口の再開発が始まりまして、これによって大きく豊島区が変わっていく。つまり日本が誇る三大都市が、これからの10年、20年で大きく変わってい

く。その変わっていく豊島区のビジョンを、この産業振興指針の中で、ぜひとも盛り込んでいく。そういうようなことに、ぜひとも皆様方の経験や知見を盛り込んで、単に区が作ったものではなくて、1人1人の区民の方々が、区に関わる全ての方々が自分の街を作ったものだ、というふうにこう言えるのではないかと、審議会の活動は非常に少ないけれども、1人1人の意見が将来の豊島区に非常に大きな役割を果たすということで、ぜひとも皆様方から忌憚のないご意見をいただければと思います。特に先ほど生活産業課長からもありました、参考資料6、審議会とは直接関係ないですが、先ほど高際区長が基本構想・基本計画を作っているということでこれを紹介していただきました。今日は十分に紹介する時間はありませんが、ぜひとも帰って読んでいただき、何か気づいたこと、私だったらこんなことやりたい、こんなことを思う、提案できるってということがありましたら、どうぞ事務局までメールで結構ですのでご連絡いただければと思います。これからの豊島区は、やはり全ての人たちが関わることによって変わっていく。そのようなロールモデルを、23区に先行して作っていければというふうに考えておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日の議題の大きな柱にもなりますが、今までの事務局からの説明を受けまして、委員の方々それぞれの立場で感じたこと、あるいはこれからの産業施策へのご意見、あるいは豊島区に対するご要望等ございましたら、ぜひともお話をいただければというふうに考えております。時間の都合上、短いですが1人2、3分でお願ひしたいと思ひます。

委員： 私の部署が企業人財支援課です。組織改正があり、今年から名称が材料の材から財産の財に変わっています。今更かもしれないですが、人的資本経営という言葉も出てまいりましたが、中小企業の皆様の経営にとっても、人を大切にす経営ってのが非常にフォーカスされていて、大事だと言われています。この重点政策の中にも人材確保、人手不足が非常に大きな課題として取り上げられていて、それに対する対策が重要だということも含まれていると思ひていますが、中小企業の経営の中で、働く人をどう大切にすしていくかということももちろんですが、経営の視点で人材ということにどう光を当てていくかを考えて、何がお手伝いできるのかなと思ひています。前回からの審議会のメンバーということで、私も引き続きこちらにお世話になります。前回もいろんな活発な議論がされた中で、指針が示されたというところではありますけれども、指針が絵に描いた餅にならないように、いかに実践的に横連携、コラボレーションを促進するか、具現化できるようにお手伝いできればなというふうに思ひます。よろしくお願ひいたします。

委員： 池袋は最近、高層階のビル、オフィスタワーが増えています。ちょっと防災が心配だなと思ひています。高層階の方に住んでいる、働いている方が、災害を受けたときに、降りることができない。区として対応ができることが見えてくれば、高層階で働いている方も安心して働けるのではないかと思ひました。よろしくお願ひします。

会長： ありがとうございます。私も2011年の東日本大震災のとき、ちょうど名古屋に出張してしまひて、名古屋駅前の豊田ビルが一番上で2時間閉じ込められました。上にいるとそういうときに本当怖いなというのを、身をもって感じております。防災視点についても引き続きご意見いただければと思ひます。

委員： 最大のテーマは、直近この半年ぐらい会議所として思ひているのは、人手不足、特に運送関係の業者の方や建築関係ですね。採用、あるいは人を留めることで苦勞されている。経営的には賃金を上げることなどでも苦勞されている。

もう一つ、ずっと続いているのが商店街やあと商店もですけど、経営者の継承です。続けて商店経営できるようなバックアップですね、先ほど商品券の話も出ましたけど DX を学んでいくとか、そういうようなこともテーマにしております。そして何よりも最大のテーマ、街づくりでございます。これは産業の一番のベースのところをしっかりとした街へということで、先ほどお話にもありましたが、特に防災でこの半年ぐらいで、台風が来て、日本で地震があって豊島区は軟弱地盤じゃないのかとかですね。意外と豊島区全体高台にあると思われていますが、アンダーパスがないわけではないですし、橋もあるしということで、これからお住まいになっていただく方、今住んでらっしゃる方が商売して、私達が安全に、観光客も安心して来ることができる街づくりに意識のシフトをしていかないといけない、盛り込んでいかなきゃいけないところなのかなど。まさに今高層化が進んでいる池袋に限って申し訳ないですけど、東口の開発はハレザを中心に終わってきた。今度西口の開発でエリアプラットフォームという素晴らしい団体が出てきて、東西を連携させる話があるし、西口のこの駅前開発に関しては、今アナウンスいただいたように 2040 年の完成。その駅前に 50 階クラス、40 階クラス、30 階クラスと大きな新ランドマークが出来上がる中で、その周辺東西を繋ぐ連携とその周辺で今事業をしている人、あるいは地権者、住民に豊島区さんがアンケートを取ってヒアリングを今度一緒にやりましょうということで、この前の都市計画委員会にかけていただいて、どんな街づくりをしていくと力がつくのかなど。大きい会社の半導体を納めているところもある。育成ではなく、継続して豊島区に残ってほしい。この産業振興指針は本当に丁寧にその辺豊島区がバックアップしてくれている。我々が利用して、繋げまして、リアルに持っていけるかどうかというのが、この審議会での議論となります。もちろん自分で何でもやらなければいけないというところはありますが、力を合わせて発展できればいい、このように思っております。よろしくお祈いします。

委員： 今回初めて委員にさせていただきました。もう少し、きちっと勉強させていただいてから意見を申し上げたいと考えております。

豊島法人会から派遣されていますので、豊島区で一番会員数が多い経済団体ということで、中小企業の支援、人材確保そこら辺のことを、きちっと勉強してから、意見を改めて述べさせていただきたいと思ひます。

委員： 中小企業家同友会では、5 年ぐらい前から豊島区さんに毎年政策要望をしております、その中で今回の指針に我々の要望、中小企業支援補助金の一部取り入れていただいて誠にありがとうございます。また、資料には載っていませんけれども、MONO づくりメッセや地域ブランド育成事業で地域企業家同士の繋がりを作れる、商機を作っていただけるというのは我々としてもありがたく思っています。なかなか継続していくのが難しいという話は聞いていますが、何とか今後もよろしくお祈いいたします。

私の感覚的なものにはなるのですが、豊島区は新宿や渋谷と比べてコンパクトな街並みな印象がありまして、地域内での繋がり作りやすいのではないかと思います。そういったところで豊島区の力を発揮できるようにしていければなと思ひます。

文化振興の方では、漫画・アニメ・コスプレの聖地というのを去年から掲げていただいて、そういった分野の振興に力を入れていただいていると思ひます。様々なイベントを池袋中心に、南長崎といったところで開催いただいて、かなり認知度も高まってきていると思ひますので、観光だけではなく、産業としても、より発展できるような仕組みもあわせて考えていただけるといいのではないかと思ひます。現状拝見しますと

私も外から見ているだけなので、内情を正しく理解できてないかもしれないですけど、区と大手のアニメ産業の会社を中心に大変盛り上がってきていろいろな人が集まれる土壌というのができてきたと思います。今後中小規模の事業者、例えば、関連する飲食店であるとか、グッズショップそういったところについても、積極的に区がやるのか、民間がやるのかというのもあると思いますが、池袋でやるイベントの企画とか参画、そういったところに取り組んでいけるような仕組みを何らか作っていただけないかと思います。

先日、生活産業課長に西口再開発の話と同友会でしていただきました。そのときもスタートは区が音頭をとったと伺いましたので、そういったサブカル系の会社、事業者さんの組織化、例えば同業者単位でも面白いし、地域ごと、区域ごと地区ごとでもいいかもしれないです。例えば商店会に類似したような組織をつくっていただいて、組織単位で支援をするとか、そういったアイデアはちょっと具体的な形は何とも申し上げにくいんですけど、中小事業者さんを組織して、そういった方々もより一層巻き込んで、しかも一層そのような仕組みがあるから入ってきて起業しやすいことをアピールできる。そういった仕組みをぜひ今後検討することでより一層発展させていただけないかなというふうに思う次第でございます。

委員： 子育て経験を通し、また近くに区境がある場所に住んでいることから、これまで豊島区は子どもインフラが貧弱かなと感じていました。子どもが小さいときは他区の子どもの居場所にお邪魔して遊ばせることがありました。近年、豊島区もイケサンパークや、南池袋公園ができてやっとこの池袋にも子ども達の場所ができた感があります。一方で、今も子ども館や、雨や、天候が悪い中でも子供たちがのびのびと長時間過ごせるところがないと感じています。整った施設があれば、子どもたちが長く過ごすために親と近くでデザートを食べたり、お昼を食べたりということにつながると思います。または商店街や、街のお店で買い物することにつながるかもしれません。環境が整うことによって連動する経済的な仕組みを考慮してもいいのではと考えます。もしかしたらこれから再開発が行われるということなので、そこに盛り込まれているかもしれませんが、今後どうなるのだろうと、1住民として子ども向け施設の充実を希望しています。

会長： 若者というか、お子さんの視点はなかなか入れにくいというか、ぜひともそういう意見を審議会で反映していただければなと思います。

委員： 普段は池袋西口で不動産管理の仕事を主としてやっております、2016年の10月に今はもうないマルイの裏に、シェアオフィスを開業しました。延べ150人ぐらいの正会員の方と500名以上の一時利用の方を日々横で見ていると大変だなと思うことが三つほどあります。

一つは法人なり個人事業主なり、創業をしたての方々が金融機関に新しい口座を作ることが拒否されるということです。何とか支援できないかなと、当社と取引のある信金さんを個人的に紹介して、それがやっと3組、4組実績が出てきている。金融機関に対する信用力の付け方をサポートしてあげると創業がしやすい街になるのかなというのが一点目。

二つ目がコロナを契機に、Zoomですとかいろんなオンラインツールが発展をしております。皆さんが使用しているオンラインツールは、どうしても後ろで声が聞こえてしまうので、どんな人とどういう話をしているのかなとふと耳をやると、遠方とか海外の方と会議をしていることが多くて、働く場所にこだわらない働き方っていうのが増えてき

ていると感じています。

三つ目が、1人1社の肩書きではなくて、例えばA社の〇〇ですというシーンもあれば、B社の〇〇ですというシーンもあって、1人がいろんな肩書きを持ちながら働いているというのを感じているところです。この産業振興指針でそういったフリーランスの方、これから創業していく方々に対するケアとかをもっと現場レベルで考えられたら面白いなあと思いました。

せっかく生活産業課さんがかんでいる商店街、それについてお伝えすると、昨今都市開発とか新しい道路が開通し、区画整理が地図の形が変わるような開発が増えていると思います。池袋、西池袋の住所がつくところは、もう30年前、40年前の区画整理で、既存の町会とか商店街が分断されている、当時のままの区割りで細かい飛び地が多くありもう隣と合併したくて仕方がないのに、誰も相談に乗ってくれないみたいなどころが結構多いです。今も一つ二つ、商店街、町会が合併をしようとしています、そういったところも支援をしてあげると弱小商店街が大きいところと一緒にあって、もっと活性化したりするのではないかなと思います。

委員： 大学が求められるのは、おそらく地域貢献と人材育成だと思います。大学の使命そのものには教育、研究の他に社会貢献と法律でうたわれています。その観点で今様々な大学が地域連携を行っていると思いますが、どちらかという先生方のゼミとかそういった小さなかかわりが結果として大学の地域連携に繋がっているように見えています。ただ、ここは先生の努力によるところが大きいです。これから大学として地域といかに組んでいくのが大事だと思います。現在私どもの大正大学は、区役所にお力添えをいただいて、巣鴨の方でいろいろやらせていただいていますけれども、やはり大学として組みますと継続性が高まっていく、先生方の個々のゼミになりますと先生方も継続性の努力はしていますが、先生方のテーマが変わってしまうと終わってしまうということがあります。今後、大学と地域どうやって連携していくのが1つ大きいところではあります。

それから人材育成の面で言いますと、大正大学学生の特徴かもしれませんが、地元にある企業、働き方についてあまり知らない、情報がない、接点がないという実態があります。それから特にインターネットで職業を検索する以上、耳障りのいい言葉で検索をしますので、働くことの実態をなかなかつかみきれていないという学生が多い。地元には多くの団体様、企業さんもありますので、豊島区文化商工部長にちょっとお力添えをいただき、東京商工会議所豊島支部と組んで、豊島区内の企業の経営者の方に学生と対話する場面を用意しました。そういった面と言うと大学と地元の団体様や区役所が組む枠組み作りが重要かなと思っています。大学のある地元で働き方を想像できたという記憶がこれからの働き方を変えていくと思っていますので、今後ぜひそういった取り組みを広げられたらいいかなと思います。その面ではありますと、区長と大学の学長さんの懇談会があると思いますが、学習面での対話が多いとは思いますが、ぜひ産業振興に関するテーマも入れていただくと学長さんが認識されると思うので、少しですが大学の中での動きを変えられるのではないかなと思います。

会長： おっしゃる通りゼミで豊島区の産業活性化についていろいろやっていますけれども、確かに個別のゼミでやっています。大学全体でやるというのはコンセンサスの問題、あるいは先生方の考え方の問題を含めてなかなか難しいので、やはり豊島区がリーダーシップをとってやっていただくと、もしかしたら変わる場所もあるのかもしれない。

委員： 複合施設の運営に携わる者として今後の商工政策について三点関心があります。一つ

は「池袋のブランディング」とは何だろう？というところをこれからは考えていかなければいけないと思っています。先ほど他の委員様がおっしゃっていただいた渋谷、新宿と比較して池袋を客観的に見たときに、「池袋に遊びに行きたい」、「働きたい」、さらには「住みたい」という人をどう増やしていくのかということが、最終的にこの産業振興という意味で非常に大きな役割を担っていると思うので、池袋という街のブランディングを皆様と一緒に考えられたら良いなというのが一つです。

二点目としては先ほどお話がありました「外国人の方の活用」です。各所での人材不足問題を豊島区でお住みになっていらっしゃる外国人の方と一緒に解決していくこと、これこそがSDGs、国際都市に向けた一つの大きなステップになるのではないかと思います。

三つ目は「デジタルの活用」と思います。例えばですが、指紋認証や顔認証でのお買い物というものも既に鉄道会社や他地区の商業施設でも実証実験が始まるという話も聞いています。ぜひ豊島区もそういったところに力を入れられてはと思います。区内は中小企業様も多く集まっていますので、トライアルがしやすい環境じゃないかと私は思いますので、ぜひここでいろいろ議論できたらと思います。

会 長： 先ほど池袋、新宿、渋谷の共通項として再開発があがりました。この三つの街の実は共通してないことが一つあります。渋谷と新宿は、駅の名前イコール区の名前。でも、豊島区は池袋なのです。そういった意味でいうとやっぱりここが豊島区じゃないと、渋谷と新宿はそこが盛り上がるイコール区が盛り上がる。池袋が盛り上がっても、豊島区が盛り上がらないってこのアンバランスをどう解消するかっていうのは、これは我々が考えるよりも、区が考えた方がいいかと思いますが、ただもう一方で、これ皆さんも考えていただくと、やっぱり池袋が盛り上がればイコール豊島区が盛り上がるという、その交通ルールみたいなものですね、ブリッジみたいなのを、考えていただくと非常に産業振興としても、より面白くなるのかなというふうに思います。

委 員： 消費者団体連絡会というのがございまして、そちらで皆さんいろいろとお話をしていたので、その話をしようかなと思っていたのですが、先ほどのお話を伺って池袋のブランディングっていうのがすごくいいなと思いました。私生まれも育ちも池袋で、ずっと池袋ですけども、会う人、会う人によく住んでいるねって、言われることがよくあります。ほとんどの方が住むところあるとおっしゃいます。だから、池袋普通ですよ。あそこは人が住むとこなんだろうかと思っている方も意外と多いっていうのを日々感じているので、ブランディングっていうのはすごくいい言葉だなと思いました。

本題にいけますと、3月からの指針に盛り込まれた消費生活ということで課題が二つあると思います。一つが消費者教育です。コロナでさらに増えたと思われるオンライン通販、インターネット通販ですね。電子取引、SNSから引っ張られて物を買おうとトラブルが起きるっていうことが結構あるのですが、それに対する消費者向けの教育ということで、私が消費者団体連絡会に入っているときには、消費生活センターの方がメールでこんな情報ありますよというのをいただけるので、消費者団体連絡会は、各種生協、コープみらい、生活クラブ等々の方が多かったんで、そうするとみんな会員の方に、こういうのがあるから気をつけてくださいねって言えます。そういうのに入ってなかったらなかなか言えない。自分から取りに行かないと知り得ない情報というのもありました。それをさらに強化していった方がいいのではないかと考えておまして、既に消費生活講座というのを豊島区でやっております。非常に勉強になる講座なのですが、もっと参

加者が増えるように広げていきたいというのが一つございます。

もう一つが、SDGs に関する取り組み。豊島区は SDGs 未来都市ということで区広報にも載っていたと思うのですが、今回エシカル消費ということについて指針の方に載っております。エシカル消費って、言葉がなかなか浸透しづらいということで、エシカルというのが直訳すると道徳的とか倫理的とかなんですけれども、結局は地球環境、社会に配慮した消費サービスをしていこうということで、食品ロスの問題ですとか、日本っていうのは食料自給率がすごく低いので、限りあるものをしっかりちゃんと消費していこうということですね。あとは防災対策にもなるローリングストックというやり方があります。最初ちょっと難しいのですが、生活の中で慣れてしまうといざ、何か災害があったときに蓄えがなくて困った、何日も生活できないどうしようっていうことが、これがちゃんと教育がみんなに浸透していったら、豊島区は何かあっても、とりあえず家庭の中で何とかなるっていう状況に持っていけると思います。そういうローリングストックのやり方等々、いろんな教育啓蒙活動みたいなのができる機会があればいいなと思いました。今後も私は団体でいろいろ学んで、皆さんが問題を提起して学んでいく、発信していくっていうのをやっていくのですが、それがもっと広げられ、活動がうまくここに盛り込まれるように、1 消費者として発言していきたいなと思っております。

会 長： お2人から、ブランディングって言葉が出ましたけど、先ほどの三都市には弱点があって、ブランディングがないのです。新宿といえば何かって言うとなじじゃないですか。渋谷も若者の街ではありますけども、でもそれは全然ブランディングでも何でもなくて。先ほどのオリパラのようにパリのことは、花の都パリとかね、霧の街ロンドンとかあります。よく池袋は危ない街と言われますけども、全然ブランディングじゃなくて。やっぱり草加のおせんべいとか、川越といえば芋とか、地域ブランド、お土産を含めて、やっぱり実は大都市であるがゆえにそこに安住していてブランディングがないのです。ですから、もしこの産業振興指針の中で、そういった池袋を中心としたブランディングができると、渋谷、新宿のように駅と街が一体化しているわけではないけれども、逆にそこを一步抜けて優位に立てる、やっぱり池袋の方の個性が光り輝くかなというところで、そういったブランディングについてもぜひとも、サンシャインシティさん等々もありますので、そこを中心に一緒になって考えていけると、豊島区・池袋がこれからも光り輝くかなというふうに思ったりしています。

委 員： 指針を拝見させていただきましたところ、豊島区の課題をよく網羅した指針が出来上がっているなと思った次第です。

業務で携わっている中小企業の一番の課題というのは一番肝心な人手です。売り上げ等々についてはコロナ禍を経てだいぶ戻ってきているところが多いのですが、何をやるにしてもついてくるのが、人がとにかくというものがついて回ってきております。ただ人を確保するというのは取り合いになっていきますのでなかなか簡単ではございません。そうなってくると、どういうふうに業務を進行していくかということになってくると思いますので、そうすると指針3にもあるようにやっぱり DX 化の推進というところで、そこを効率化させていくということになると思います。ですので、豊島区に期待することは、DX 化を含めた、そういった課題を、チャレンジできる街、そういったものを期待したいと思います。

豊島区の現状分析の中で創業比率というのは割と高く23区中5位ということで、高

いなという感じはあるのですが、私どもの融資の申し込みで創業者の融資でもですね、なんで豊島区なのかという、なんでこの場所で創業なのかというのを確認するようにしております。そういったしますと、ほぼほぼ今自分が携わっているところに近いから、そういった形で創業するというのがほとんどです。ですので、ブランディングという話が出ましたけども、ぜひ豊島区で創業、これやりたいから豊島区で創業する、これがやりたいから池袋で創業する、そういったものをぜひ確立してもらえればと思います。

先ほど金融機関の口座のお話が出たのですが、その中で、やはりシェアオフィスとか、バーチャルオフィスというのはなかなか口座が作りにくい、作れない。世の中に玉石混合で悪いことをする人も中には混ざっているのをそれを排除するため、マネロン対策ということではなかなか簡単ではないというのが現状なのですが、よくあるのが自宅は豊島区だけでも、会社は銀座、バーチャルオフィスで銀座とか、渋谷というのはよくあります。なんで銀座なのか、あるいはなんで渋谷なのかというと、銀座という会社はやはりブランドなのです。名前がブランドなので何かの商売をやろうとすると銀座に会社がある、それだけで信用が高まるということがあるのです。同じように、IT系そういったものをやろうとすると、渋谷区渋谷という住所に会社があるとネットがすごく強いのではないかとというようなイメージがあるということなのです。そういった形で豊島区には、これをやるのであれば豊島区で商売と、ブランドを確立させていただければと思っています。個人的にはですね、豊島区、池袋もそうなのですが、コンテンツビジネスは非常に底力があるのではないかと考えています。練馬とか杉並とかアニメ産業がもう半世紀以上根付いている街がすぐ近くにもあります。色々なサブカルもありますし、海外、世界にも発信できる情報網コンテンツを持っておりますので、ぜひコンテンツビジネスをやるのであれば豊島区というようなブランディングを確立させていただければと期待しております。

会 長： 今 DX 化が出ましたが、確かにこの会議自体も膨大な紙が出るじゃないですか、これ東京都の会議に出ると紙が一枚もない。全部タブレットにデータが入っていて、同期されていると自動的にその画面がスクロールされますので見落としもないし、ちゃんと見ることができる。もちろん、それぞれの画面を変えることもできるので、そういったところも変えていくと、紙の無駄遣いもなくなりますし、会議の効率化等々が図れますので、大学なんかでもね、そういうことをやっているところも多いかと思いますが、やはり行政機関が積極的にペーパーレスに向けて取り組むとさらに SDGs、デジタル DX にも繋がっていくのかなという感じがします。

委 員： 私も池袋、豊島区で生まれ育ってずっとおりますけれども、やっぱり意識が低いというか、ついていけないというのが現状でございます。商店街連合会っていうことも先ほど先生がおっしゃってくださったように、豊島区は池袋と、ちょっと外れの大家なり巢鴨なりっていう所があるので、どうしてもオール豊島って言うと、外から見ると池袋が強いのかもしれないけれども、やっぱり個々のところが、バランスが微妙に違いまして、それをいかに一つにまとめるっていうところが、皆さんの方向が、意識が一緒の方ところに向かっていくようにするのがまずそこからかなっていう気もします。個々でやっていることはすごく重要で、皆さん一生懸命やったださっているんで、私も住んでいてそんな感じがしています。その商店が何かデジタル的なところもあるけど、昔ながらっていうところを生かしていけば、今後の未来もすごく輝かしい感じもするのですが、古き良きっていうところも大切に商店街っていうものを担って、それが懸け

橋、区の人たちと一緒にやっていたら強いものになるのではないかなと期待しております。

文化商工部長： 皆様方からいただきましたご意見について、なるほどと思いながらお伺いさせていただきました。少し感想も含めてお話をさせていただければと思います。今回、半分の方が新しい委員ということでございますけども、私は昨年度まで生活産業課長として先生のご指導のもと、この産業振興指針を皆さんと一緒に作ってきた人間でございます。いろんなところでですね、産業振興というのは幅広い良い面がございますので、全てのところを網羅できているかということ、そうではないということであると思いますし、これからより良くするためにということで、皆様方からご意見を頂戴したものだと思ってございます。

何点か触れさせていただきますと、先ほど高層ビルが非常に多いので防災が心配というお話もございました。当然ですね、これからの大きな地震ですとか、災害というのはいつ来るかわからない。必ず来るだろうということもございますので、東日本の時にも、企業版のBCPを作りましょうという話がありましたけども、あれからもう相当年月も経っていますので、新たな課題に向けても、企業版のBCPというものを作っていく必要があるのではないかと、またそういうものを支援していく必要もあるのではないかとこのところでございます。

それから、池袋はマンガ、アニメ、コスプレが非常に盛んであるので、こういうものが大企業だけではなくて中小企業も積極的に参加できないかというようなご意見もございました。23区みますと、各区いろいろ地域の実情が違いますので特性があります。池袋は特にこのマンガ、コスプレということで今売り出しをしております。コンテンツビジネスも盛んに行われております。一つですね、企業版として各企業さんが連携をして意見交換をしながら連携をしていこうという“チームとしま”という取り組みを行っております。こういうものにも参加をいただきまして、行政だけではなく地域そして民間の事業者さんも一緒になってやっていくのが豊島区のいいところなのかなと思っております。こういうものでみんなが支えていくというやり方を再度検討ができるのかなと思って聞いておりました。

また、子供の視点がこの産業の中に足りないというようなご指摘もございました。今ですね、基本計画・基本構想の審議を進めているところでございますけども、高次区長になってから今まで文化を中心にした街作り、産業振興もその中に入っておりましたけども、これまでのやり方にもう一步踏み込むということで、そういうのが子供ですとか、若者、ひとり親ですとか、障害をお持ちの方、こういった方になるべく参画の機会を与え、多様な視点を取り入れたものが必要だということで進めております。なかなか産業部門ですと民間企業さんが中心ということもあり、この辺の視点を忘れがちになると思っておりますので、こういう要素もしっかり入れていかなければと感じたところでございます。

それとやはり産業振興ということでは商店街の話を避けて通るわけにはいきません。今、商店街も非常に色々な形で地域のコミュニティの核ということで頑張っているんですけども、小さい体力のないところが合併に向けた話し合いも進んでいるというようなお話もございましたけれども、なかなか私達の支援にたどり着くまで時間がかかっているということもございます。何とか生き残るため合併して頑張っていきたいというような商店街の皆様方を支援するには、やはりもう少し積極的に情報発信ですと

か、私達がより街に出てそのようなお声をキャッチして相談に乗るとか、そういうことが改めて必要だなと感じたところでございます。

また、人材育成の話ですとか、外国人の活用、登用、特にデジタルの活用ですね、こういうものについては、指針の中に書き込んでおりますけども、さらに一步進めた形で取り組んでいくべきと思います。先ほどですれ会長からお話ございました、会議の紙資料ですが、区の内部の会議は大体もう全てペーパーレス化、タブレットで行う、そして、現在も進めていますけど、議会の議員の皆様方にもさらなるペーパーレス化にご協力いただくということもございます。今後は、このような紙の資料、やはり紙でないとなかなか伝わらないというものもございますけども、ペーパーレス化に向けてはですね、今後事務局とも相談をしながら、しっかりと進めてまいりたいと思っております。

いずれにしても、今回策定した産業振興指針について、新たな委員の皆様方からいろんなご意見を頂戴する中で、新たな視点はしっかりと私達も検討しながら取り入れていって、より区内の産業振興を盛り上げるように努力をしていきたいと思っております。皆様方の貴重なご意見本当にありがとうございます。

会長： では、ただいま皆様方から出た意見につきましては、今後ぜひとも検討に活用させていただきますというふうに考えております。

続きまして次第3 その他について事務局より説明をお願いいたします。

生活産業課長： 本日は限られた時間の中でご発言をいただきましてありがとうございます。もし追加のご意見などがございましたら、9月20日頃までに事務局宛にお知らせいただければと思います。先ほどご説明いたしました基本構想・基本計画に関する意見もお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次回の審議会につきましては、来年の令和7年7月頃開催予定でございます。日程が近づきましたら、皆様にもまた改めてご連絡をさせていただきます。

最後に事務局からの確認事項でございます。今後事務局からの資料の共有などは基本的にはメールで行いたいと考えております。メール以外をご希望の委員の方は、審議会の終了後事務局までお申し出ください。また、本日お車でお越しの方につきましては、駐車券の割引処理が必要となります。同じく事務局までお持ちいただければと思います。事務局からは以上となります。

会長： 本日は多くの方々から様々なご意見いただきました。共通するに印象としては、人手不足、防災、子供という視点、そして、ブランディング、デジタル様々なものが出ました。こういったそのキーワードを基に、ぜひとも次回以降の産業振興指針に、その内容を盛り込んでいければというふうに考えております。

それとやはり今回はですね、非常に新しい委員が多いということで、人が変われば見方も変わるなというふうに思いました。また、見方が変われば当然やり方も変わるということで、やはりこの審議会は、審議会の中でのやり方を今までのやり方のいいところは踏襲しながらもっと、さらにブラッシュアップするところはするということで、そういう視点で次回以降も、ぜひとも反映させていきたいというふうに考えておりますので、先ほど事務局からもありましたけれども、今日言えなかったこと、あるいは後ほど考えたことありましたら、ぜひとも事務局の方までお寄せいただければと思います。

最後に皆様方から何か、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上をもちまして、令和6年度第1回豊島区商工政策審議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。